

第3章：稼ぐに特化したタロット占いの基本

・基本のタロット占いのやり方

タロット占いのやり方はカンタンです。

- ①知りたい質問を決める
 - ②カードをよく混ぜて、1枚（場合によっては複数枚）引く
 - ③カードに込められたキーワードやイメージを使いながら解釈する
- これだけです。

仮に同じ質問をして同じカードが出たとしても、どう解釈するか（リーディングという）はその人次第。

つまり、**解釈に正解はない**ということです。

正解はないので、どんな解釈をするのも自由なのです。

それこそ、占い師の腕の見せ所ってことですね。

対面以外の占いなら、実物のカードを引く必要もなく、Webサイトやタロット占いアプリで充分です。

・タロットカードの基本知識

トランプの起源やマークの意味を知らなくても、ババ抜きは楽しめますよね。

それと同じで、タロットカードが何たるかを深く知らなくても、タロット占いはできます。

まして、稼ぐためだけであれば、歴史や基礎知識なんかまるで関係ありません。

ただ、ある程度は背景を知っていたほうが、余計な疑問が芽生えないでスッキリすることもあるので、ここで軽く説明しておきますね。

まず、タロットカードは**大アルカナ**と、**小アルカナ**という2種類のカードから成ります。

小アルカナは、ほぼトランプのようなものと考えてください。

4つのマークがあり、それぞれのマークに1～10の数札と人物カードが4枚ずつ、計56枚のカード（14×4）があります。

大アルカナは、22枚の絵札です。

その起源はハッキリと分かっておらず諸説あるのですが、現存する最古のものが15世紀にイタリアで見つかっているとされます。

当初は貴族の遊びに使われていたものが、徐々に庶民化していったようです。

はじめは遊びで使われていたタロットカードですが、18世紀に入ってヨーロッパでオカルティズムという神秘思想が流行したことも影響して、次第に占いに使用されるようになっていったと言われています。

現在では、さまざまな絵柄のタロットカードが市販されています。

もっともスタンダードなのが**「ライダー版」（ウェイト版とも呼ばれる）**というものです。これは、19世紀末に結成された「黄金の夜明け団」の一員だったアーサー・エドワード・ウェイトという人が、同じく団員のパメラ・コールマン・スミスという人に作画を依頼して出版されたもので、これが世界中で爆発的に売れたということです。

・フルデッキとは

タロット占いの商品で「フルデッキで占います」と書いてあることがあります。

これは、「大アルカナと小アルカナすべて使って占います」という意味です。

ただ、フルデッキであっても、大アルカナの方が重要な意味を持つとされ、小アルカナのカードが出てても無視することもあります（ガチベテラン占い師でも）。

大アルカナだけでどんなお悩みも占えるので、まずは小アルカナのことは気にしなくてOKです。

・大アルカナの意味

大アルカナには0から21までの番号が振られた絵札が22枚あります。

それぞれの絵はさまざまな意味を表しています。

たとえば、これは0番の**「愚者（ぐしゃ）」**のカードです。

「愚者」というと、いかにも頭の悪そうなひどいネーミングですが、ストレートに「バカ」とか「アホ」とか、そういう意味を表すわけではありません。

カードに描かれているのは、

旅人が空を見上げ、旅を続けている。

しかし、一歩先には断崖絶壁があり、そのことに気づいていない。

足元の犬が吠えて警告している。

といった状況です。

そういった描写から汲み取れるカードの意味としては

- 枠のない自由奔放な行動
- 未知の世界に飛び込む冒険心
- 純粹無垢な精神
- 未確定の未来
- 無計画で愚かな行動
- コロコロ変わる不安定な状況

- 根無し草のような生活
- 集中力に欠ける
- 警告に気づかない

などなど。

キーワードとしては「自由」「大胆」「無邪気」「楽観的」「無計画」「向こう見ず」など、挙げていけばキリがないくらいです。

芋づる式というか、連想ゲームというか、どんどん出てきます。

さらに、ライダーズ版のタロットカードは「シンボル」の解釈もすることができます。
たとえば、

- 愚者の帽子についた赤い羽根 → 空っぽ、気まぐれを表す
 - 服に描かれたアサガオの模様 → 新たな始まりを表す
 - 手に持った白いバラ → 純粋さを表す
- といった具合です（何のシンボルが何を表すか、ということすら諸説あって絶対的な正解はありません）。

また、この愚者という人物はトランプでいうところのジョーカーと関わりがあるとも言われ、大アルカナの「主人公」的な存在です。

大アルカナは、この「愚者」の「魂の成長物語」という側面もあり、カード1枚ずつの独立した意味に加え、大アルカナ22枚全体のストーリーとしての意味付けもあったりします。

・・・とまあ、1枚のカードがさまざまな事象やキーワードを含んでいるのがタロットカードの魅力や奥深さといえます。

・意味を覚える必要はない

残りのカードの意味はここでは省きますが、入門書を1、2冊見ておくと、それぞれのカードのイメージがつかめるかと思います。

わざわざ本を買わなくても、ネット検索でも十分です。

複数の本やサイトを比べると分かりますが、それぞれのカードについての解説やキーワードもものによってバラバラです。

何か1つの正解があるわけではありません。

当たり前ですが、キーワードを丸暗記する必要はありませんし、意味もないです。

ざっくりしたイメージや概念を理解できていれば十分ですし、都度調べながら自分の中でしくりくるキーワードを集めていきましょう。

どのみち、自分の中で腑に落ちた言葉しか使いこなすことはできないのです。

「なんかこれはイメージに合わないな」とか「この意味はしっくりこないな」というキーワードを集めても意味ないですよ。

・真逆の解釈もできてしまう

さて、大アルカナの「愚者」の解説を読んで「そんなにキーワードがあるなら、どうやって解釈するのさ？」と疑問に思われたあなた。鋭いですね！

そうなんです。

恋愛の相談で「あの人の気持ちは？」って聞かれて「愚者」のカードが出たとして。

- 純粋にあなたのことが大好きです。
とも解釈できるし
- あの人は無計画なので結婚することなんて考えてもいません。
と解釈することだってできてしまうのです。

つまり、**同じカードが出たとしても180度まったく違う解釈もできてしまう**と。

これでは自由度が高すぎてどう解釈してよいのか、途方に暮れても無理はありません。

「なんだよ、タロット占いが簡単なんてウソじゃねーか！！」と怒りと悲しみのガッカリしてしまった人すらいるかもしれませんね。

安心して下さい！

解釈には確固たるポイントがあります。

・稼ぎ特化型の占いは「逆算」

ここで思い出すべきは占いの目的です。

先ほど、「占い師とは、お客様の話をじっくり聞いてあげて、説得力のある根拠を示しながら、気分を上げる悩み相談のプロ」と言いました。

占いはあくまでも**お客様を元気づけるのが目的**です。

「話を聞いてもらえてスッキリした」

「ちょっぴり元気が出た」

「背中を押してもらえた」

「なんだか明日からも頑張れそう」

と思ってもらうのがゴールです。

「お客様が言ってほしいことを言う」ということ。

つまり、**言うべき内容はあらかじめ（占う前から）ある程度決まっている**ということです。

お客様は「私はどうなるのでしょうか？」と悩みを相談してきますが、

- どんな未来を望んでいるのか
 - どういう行動を後押ししてほしいのか
- というのは、本当はもう心の中では決まっているのです。（本人は自覚がないとしても。）

ですから、占い師としてはその思いをくみ取って気づかせてあげたり、背中を押してあげるだけ。

つまり、すでにゴール（お客様が望む言葉）はあって、そこに向かって言葉を紡いでいくということ。

稼ぐための占いとは逆算なのです。

・どのカードが出ても関係ない

カードを引いてから結果（解釈）を考えるのではただの趣味占いです。
趣味占いと稼ぎに特化した占いは違います。

前述した通り、あらかじめ言うべき内容は決まっているので、どのカードが出ても結論は変わりません。

「じゃあ、カードを引いても意味がないのか」というとそういうわけでもなくて、どのように表現するかが、出たカードによって違ってくるし、それが**「根拠のある説得力」につながってきます。**

これはキーワードを使って文章（ストーリー）を組み立てるようなもので、ストーリーにそぐわないカードは最悪読み飛ばしてもいいのです。

実際に鑑定文を書いてみれば分かるのですが、タロットカードを引いた方が、何もヒントのないフリー記述より断然書きやすいです。

学生時代のテストだってそうでしたよね？「自由に論じなさい」というよりは、「〇〇、△△というキーワードを使って論じなさい」の方が断然書きやすかったはずです。

・お客様の求めている言葉

お客様の求めている言葉、ゴールはあらかじめ決まっています。

そう聞くと、「お客様が何を求めているかなんてどうやったら分かるの？それこそ霊視みたいなものなんじゃないの？」と不安に思われたかもしれませんね。

でも、心配はご無用。

よほどひどいコミュ障じゃない限り、お客様が何を求めているのかは文章を丁寧に読めば普通に分かります。

※ちなみに、コミュ障はどんなビジネスをやっても無理ですから。

お客様の相談の意図が分かりにくい場合は普通に質問もできますので。

「もう少し詳しく教えていただけますか？」と素直に質問できるのが靈感・スピリチュアルを演じ出ししないメリットでもあります。

・プチ鑑定例

「結論ありきでカードの意味を当てはめていく」というのがどういうことか、例を挙げて説明しますね。

たとえば、恋愛相談で「付き合っている彼氏が結婚する気があるのか知りたい」という質問だったとします。

この時のパターンとしては大きく2つ。

- 彼氏が大好きで結婚したいから、彼氏にも同じ気持ちでいてほしい
- 煮えきらない彼氏に愛想を尽かしてきている。結婚する気がないなら別れることも考えている

前者のパターンだと見立てた場合は、

愚者のカードが出ました。

愚者のカードは純粋に大好きな気持ち、一緒にいて楽しい気持ちを表しています。

彼はあなたのいない生活は考えられません。

今すぐ具体的なアクションがないにせよ、将来的には結婚も視野に、あなたとの未来をハッキリとイメージしているようですよ。

という感じに鑑定できます。

一方、後者のパターンと見立てた場合は、

愚者のカードが出ました。

愚者のカードは、自由を楽しむ気持ち、大胆不敵で行き当たりばったりの様子も表すカードです。

彼は、あなたとの交際を心から楽しんでいますが、今は自由でいたい気持ちも強いようです。

将来についても建設的に考えているわけではなく、成り行きに任せるようなところがありそうです。

結婚を望むのであれば、彼からのアプローチを待つのではなく、あなたから話し合いの場を作って気持ちを伝えたほうがいいでしょう。

といった鑑定ができます。

「結論ありきでカードの意味を当てはめていく。」

何となくイメージが湧いてきたでしょうか。

・ベテラン占い師も同じようにやっている

「結論ありきでカードの意味を当てはめていく」

「ストーリーに合わないカードは無視」

こういうことを聞いて「そんなインチキまがいな」と思ったのでしょうか？

でもこういった**「お客様に合わせた解釈」**というのは、ガチのベテラン占い師でも（少なくとも無意識レベルでは）絶対やっていることです。
そうじゃないと「解釈の基準」をどこに持って行っていいかわかりませんからね。

たとえば「悪魔」というカードがあります。

悪魔は肉欲や本能的な欲望を表すカードなので、通称「不倫カード」と呼ばれたりしています。
悪魔のカードが出た時には、

「本能に忠実に行け（不倫しちゃえ!）」

「三角関係になりやすいから今のうちに手を引け（諦めな!）」

と、どちらの解釈もできるのです。

こういった場合、お客様の性格や状況に合わせて解釈を変えるのは当然のことですよね？

※いちばんダメなのは、占い師の個人的な意見や価値観を押し付けることです。

「このお客様の場合はこういう性格でこういう未来を望んでいるだろうから、このカードはこう解釈しよう。」と、**お客様のなりたい未来の姿に解釈を寄せていくのが正解**なのです。

・お客様の人となりを知るために

「このお客様の場合はこういう性格だろうから」という推測は、文面から見てある程度は判断できます。

その他、生年月日占いも割と役に立ちます。私は数秘術という占術を使っていますが、12星座占いでもいいでしょう。

これ系の占いは統計学なので6割～7割くらいは普通に当たります。

・逆位置について

タロットカードには上下（天地）の向きがあります。

絵柄が描かれている普通の向きを**「正位置（せいいち）」

、**天地が逆さまの状態を「逆位置（ぎゃくいち）」****と言います。

逆位置の解釈のしかたも人によって違います。

「正位置がポジティブな意味で逆位置だとネガティブな意味」と解釈する人もいますし、「正位置の意味の反対語が逆位置の意味」と考える人もいます。

「逆位置は正位置の示す意味に過不足がある状態」というのが私の解釈です（強いて言えば）。

たとえば、「正位置の愚者」が「大胆」という意味であるならば、「逆位置の愚者」は「大胆過ぎる」という意味もあるし「大胆さが足りなくて臆病」という意味もある、といった感じです。

逆位置については、真逆の解釈が可能になることもあり、考えすぎると混乱してしまうのであまり厳密に考える必要はないです。

そもそも逆位置を取らない占い師もいます。

結局は結論ありきで解釈は寄せていくものなので、**逆位置だろうと正位置だろうとあまり関係ない**です。

たとえば、転職を迷っているお客様に「愚者」が出たとして。

「大胆不敵に挑戦していきましょう（転職すべき）」ともいえるし、「しっかり計画を立てないと失敗してしまう（今はまだ転職すべきでない）」ともいえるわけです。

※逆位置でもどちらの解釈も可能。

結局、先に方向性を決めておかないと解釈は破綻します。

そういう意味で、逆位置だろうと正位置だろうと解釈には関係ないので「逆位置だからどういう解釈になるんだ？」という順番で考えるのはナンセンスということです。

